

同一の御霊によつて

(1コリント12・1〜11)

一、御霊の賜物は御霊の現れ

1節をご覧ください。〈さて、兄弟たち。御霊の賜物についてですが、私はあなたがたに、ぜひ次のことを知っていただきたいのです。〉とあります。「御霊の賜物」という言葉を目にし、あるいは耳で聞きますと、ペンテコステの伝統を受け継いでいる方々は8節以降の「御霊の九つの賜物」を思うことでありましょう。

ペンテコステの伝統と全く関係のない、プロテスタントの伝統的な教会の方がこの箇所を読みましたら、「かつてギリシア文化の影響を受けたコリントの教会には、こんな現象が起きていたのだ。われわれには関係がない」と受け止めることでありましょう。

あるいは、「聖書に書かれているいやしや奇蹟、その他の不思議な出来事は、聖書という完全なものが現れる前に必要とされていたものであつて、聖書が完結された後は、必要ない」と考える方もおられます。

私が、生まれて初めて行った教会は、単立のペンテコステ系の教会でした。礼拝で、いきなり異言のメッセージが語られ、異言の解き明かしがなされ、預言のメッセージが語られ、霊歌が歌わ

れ、「これは何なのだろう」と思いました。そうではあつてもつまづくことなく、かえつて超自然的な現象に惹かれ、自分も異言のメッセージを語りたい、異言の解き明かしをしたい、預言のメッセージを語ってみたいと思いましたが、どんなに祈り求めても与えられませんでした。

7節をご覧ください。〈しかし、みな益となるために、おのおのに御霊の現れが与えられているのです。〉とあります。なぜ人によつて賜物が異なるのでしょうか。御霊の賜物とは、御霊の現れだからです。その「御霊」とは、聖霊なる神です。神が御心のままに、一人ひとりに賜物を分け与えられているのです。11節に書かれています。〈しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであつて、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。〉と。人によつて御霊の賜物が異なる、すなわち御霊の現れが異なります。同一の御霊がみこころのままに、おのおのに賜物を分け与えてくださつたからです。分け与えられる方はどなたでしょうか。聖霊なる神、すなわち父・子・聖霊なる、三位一体の神です。

二、御霊に導かれる

聖霊なる神の働きは、私たちの思いを超えています。「神の働きは、私たち

の思いを超えています」と言い換えた方が分かりやすいかもしれません。聖霊は三位一体なる神の第三位格ですから、聖霊とは、すなわち神御自身です。その聖霊は、望むままに御霊の賜物を、私たち一人ひとりに分け与えてくださるお方です。

私はこの聖句より、主イエスが、ユダヤ人の長老で最高法院の議員であつたニコデモに語られた言葉を思い起こしました。それは、ヨハネの福音書3章8節です。〈風はその思いのままに吹き、あなたがたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によつて生まれる者もみな、そのとおりです。〉と、主イエスは語られました。聖霊の働き、すなわち聖霊なる神の働きは不思議です。

皆さま一人ひとりに伺いますが、どうして自分がイエス・キリストを信じたか、すなわちイエス・キリストを、神であり、神が遣わされた救い主であると思つたか、論理的に説明できる方はおられるでしょうか。たというまく説明できなくても、キリストを受け入れた者は知っていますのです。「あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことは尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。」

(1ペテロ1・8〜9)と。これは、クリスチャンとなつた方であるなら、説明されるまでもなく、分かる言葉です。元の箇所に戻ります。コリント人への手紙12章3節を見てまいります。〈ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によつて語る者はだれも、「イエスはのろわれよ」と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません。〉とあります。この聖句

によれば、当時コリントの地域には「イエスはのろわれよ」と語つた人々がいたことが分かります。これこそは、コリントという町の特異性かと思われ、どんなに、超自然的な業が現れ、人々の役に立つたとしても、イエス・キリストを告白しない霊は神からの霊ではありません。反対に、どんなに問題があつたとしても——コリントの教会に属する教会員のように——「イエスは主である」と告白するなら、その人は救われ、教会の一員とされます。では、「イエスは主である」と告白するとは、具体的に何なのでしょう。それは、文字通り「イエスは主である」と口で告白し、さらに入信表明である水のバプテスマ、すなわち洗礼を受けることです。

一人ひとりを通して、父・子・聖霊なる神が現られる教会、そういう教会とされようではありませんか。